

副専攻名 環境共生論[基礎]									
副専攻のCP(カリキュラム編成方針)									
環境共生の実現に貢献できる人材を「育成する基礎的なカリキュラムを準備している。人文社会と自然科学にまたがる分野横断型のカリキュラム科目を履修する事で、自然と社会を総合的に理解できるようカリキュラムを工夫している。									
副専攻の学修成果									
学生の実践性を育成するため、地域というフィールドを意識した基礎的な科目を履修する事で、自然と社会を含めた幅広い知識を取得できる。									
副専攻を構成する科目									
科目番号	授業科目名	学生の学修目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4		
35704	環境共生基礎論	日本や世界の自然環境や環境資源の基礎論を理解し、環境を取りまく諸問題やそれに対応する社会動向を理解する。	2						
35722	環境経済論Ⅰ	自然資本と人工資本の関係を理解し、エコロジー経済学を学び、共進化の観点から環境問題を理解する。	2						
35723	環境経済論Ⅱ		2						
35724	農業経済論Ⅰ	戦後日本の農業農村の概史から農業産業としての農業が抱える様々な課題に関する理解を深める。	2						
35725	農業経済論Ⅱ		2						
35732	食環境学Ⅰ	食環境における基礎的知識として、食品に含まれる栄養素、おいしさ、食品の生体調節機能、食品表示の見方などについて理解する。	2						
35733	食環境学Ⅱ		2						
35736	自然環境と社会Ⅰ	自然環境に対する人間社会の影響と、人間社会に対する自然環境の影響のそれぞれについて、基礎的な知識を習得する。	2						
35737	自然環境と社会Ⅱ		2						
35734	自然環境基礎論Ⅰ	日本と世界の自然環境・自然地理に関する基礎的な知識を取得する。	2						
35735	自然環境基礎論Ⅱ		2						
35745	流通・消費論	様々な地域に存在する多様な資源が、複雑な・多岐に渡る地域や関係者、システムを通して流通・普及する様子に注目し、需要者に消費されるまでの過程や構造と、そこで取り組まれている工夫や残されている課題について考察することができるようになる。地理学的な研究に注目することで、「地域」を見つめる大切さへの意識を高め、研究の視点や手法についても理解を深めることで、将来各自が行う卒業論文での地域調査に必要なスキルの習得の足がかりとする。	2						
35746	地域資源活用論	モノや自然環境、人材、生活文化や歴史など、地域が有する資源を活用し、より豊かな生活創出、優位でかつ持続的な産業活動や地域形成、教育・文化的活動、マーケティングやブランド化、認知行動などを検討していくための考え方、取り組み方や、その際に課題となる点などを学ぶ。地理学的研究の特徴や手法を先行研究を用いた事例紹介から学び、卒論作成に必要な地域を観察する技能を身につける。地域資源についてパンフレット・紹介マップを実際に作成し、報告・検討をする機会を通じて、標的市場や人々に効果的に情報を伝える技能を身につける。	2						
35747	農村計画論Ⅰ	農村計画と社会的な背景の有機的な構造について理解する。	2						
35748	農村計画論Ⅱ		2						

副専攻名 環境共生論[基礎]

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

環境共生の実現に貢献できる人材を「育成する基礎的なカリキュラムを準備している。人文社会と自然科学にまたがる分野横断型のカリキュラム科目を履修する事で、自然と社会を総合的に理解できるようカリキュラムを工夫している。

副専攻の学修成果

学生の実践性を育成するため、地域というフィールドを意識した基礎的な科目を履修する事で、自然と社会を含めた幅広い知識を取得できる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学修目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4
35751	環境思想 I	授業の各回で取り上げる思想や概念を適切に理解し、それを現実の環境問題解決に向けて応用できる力を身につける。これを通じて、理念目標に関する理解を深め、思考力を養う。	2				
35752	環境思想 II		2				
35756	環境コミュニケーション	環境コミュニケーションとは何であるかを説明できるようになる。いつ、誰が、どこで、どのように、誰に対しておこなっているのか、またはおこなえるのかを考えられ、述べられる。それが社会で果たしている役割を認識、評価できる。また、端的な環境コミュニケーションを実際にデザインし、実施できるようになる。	2				